

人生の終末期をどう多くの日本人にとっての苦痛になっている現場
過ごしたいか。人が次 誰にも逃れられない身 底にある。
第に老いていくのは自 近なものだ。厚労省が こうした現状を踏ま
然なことだが、人類史 ポスターを撤回した後 え、東京消防庁は本人
上でもまれな長寿社会 でも、会員制交流サイ の事前の希望や医師の
を実現した現代日本で ト(SNS) 上では 指示などの条件を満た
は、老いゆく人をさま 「結論を急がず話し合 せば、救急隊は心肺蘇
ざまな関係者が見守 っておくことが大切 生や搬送を行わない新
り、関わるのも自然な だ」という投稿が多く、 たな運用方針を打ち出
流れになっている。そ 自ら作ったポスターをした。

うしたケアのあり方に アップする人もいた。 老衰は治癒できず、
ついて、本人、 医療・介護の
家族と医療関 資源も無限で
係者がよく話 はない。これ

「人生会議」再論

家族と医療関
係者がよく話



し合うことが大事なの
は論をまたない。

厚生労働省がこれを 分の問題と捉える人が 断にもなるだろう。
「人生会議」と名付け 増えているのだろう。 薬のことでも、かか
て普及啓発をしたところ 生命には限界がある りつけの医師のことか
ろ、ポスターが患者や という事実を無視して らでも良い。くつろぎ

家族の気持ちに対する 延命医療を施すこと ながら、家族で話し合う
配慮不足との批判が起 が、かえって本人や家 のはとて有意義なこ
き同省は撤回した。 族の肉体的・精神的な とではないだろうか。

昨今、自然な生命力を理解する多くの人
を超えた無理な延命措 は、自分には無理な延
置はできるだけ避け、 命措置を望まないの
尊厳を持つて「最期を迎 はないか。では、老親
える」「平穏死」を巡る議 に対してはどう考える
論が広がっている。人 か。ここはケース・バ
口の高齢化に伴い、自 イ・ケース、難しい判
断にもなるだろう。